

讃岐香川の様々な文化発展を応援します。

文化通

2002

冬

12月1日発行(季刊)



墨をひとはき、たちまち別人格

池の恩人・矢延平六を偲んだ香川町浅野の「ひょうげ祭」。
ひょうげて練り歩く里人たちに交じって、地域史家の瀬尾共子さんが初挑戦。
肌がきれいだから墨がよく延びるとおだてられ、
眉は太く、髪長く、ぶつぶつゴマ髪、真っ赤な頬紅をまん丸く…。
ひやりひやりと魔法の筆が、私をすっかり別人格にしたと照れながらも、
やっぱり祭りは見るより参加するものと、秋晴れのお祭り道中に駆け戻っていました。

茶の湯の文化講座 桃山時代の道具と現代～名品を手にとって楽しむ鑑賞会～ 戸田
特別寄稿 香川国際日本文化会のこと／日本文化の価値を再確認したい
好評連載 美藻庵点描／Oh! 茶Gai!!
十一月から二月までの茶華道・イベント情報を掲載

利休っていうのが物凄い感覚的な人で、直感で殆ど決めていったんです。直感で決めるためには五感を磨いたわけです。研ぎ澄まして研ぎ澄まして、そして最後は自分の直感でこうだと言いつた人なんだと思うんです。

今、結構皆さん、私も含めて、どうしても他人に左右されてしまうって言うんですか、常に教わろうというんですか、自分の意思を出そうとは思わずには…。自分の意思をストレートに出しちゃうと、あの人、生意気だなどと思われたりして…。で、なかなかこのお茶の世界って難しい物でして、僕はあまり近寄りたくない世界なんですが…。けれども、実はその世界にどっぷり居なきやいけないという現実があるので…。

ある話がありまして、オーストラリアのジャーナリストなんんですけど、女人の人で、高校時代に何年間か日本に留学しておつたそうです。自分の性に合わなくて、早く日本から脱出して自分の国に帰りたいと思って、そして卒業してオーストラリアに帰国したんです。で、ある日バスにのろうと思ったら、ふとお金がないのに気が付いて、困った顔をしていたら、バスの運転手さんが、ああいよい乗りなさいといわれて、バスに乗せてもらつたら途端に涙がふれた。

日本じゃありえないことですよね。日本の都市で生活していくままで、バス代がないからつて、バスの運転手さんがいいよいいよ乗りなさいなんていうはずも無い。そういう者をその時感じて、母国とのギャップを感じたんですね。しかしその後、皮肉にも彼女は就職してジャーナリストとして日本に結局来ることになつたんです。

中條文化振興財団助成事業 茶の湯の文化講座

主催
茶の湯をさらに楽しむ会

桃山時代の道具と現代2

～名品を手にとて楽しむ鑑賞
講師／谷松昌、吉野、豆田、博氏

前回に引き続き、6月30日晴松亭にて行なわれた戸田氏の講演会の後半の要約です。題して「現代における茶道文化のとらえかた」。様々な価値観が交錯する現代において茶道の意味とは、またどのように対していくべきよいか!?お茶の道具商としての立場からひとつの提案をいただきました。



それで、来た途端にお茶。ジャーナリストですから当然日本の文化を知ろうと茶道文化に出会うわけです。彼女もそうですが外国人の人ってお茶に接しますときに、いつたん接しますとなかなか止めていかないんですよ。僕も大勢の人を知つていいんですけど。

ういう言い方失礼ですが、外国の方が日本のお茶の本質を考えるとはそういうことなんですね。だから止めない。日本のトーナメントはわりと飽きたり、がっかりしたとかで止めちゃうんですけれども、それは型として取らえてしまってから止めていくんですね。自分の生き様にこうあまり照らし合

なぜ止めいかないかと言ふとですねえ。お嫁入りのための道具でもないでしようと。お付き合いでもないわけです。だから。お付き合うためにお茶なんか必要ないんですから。じゃあなんだつて言いますと、思想なんですねえ。ほんどうが、お茶の中にあります道教とか儒教とか禅とかというもの的思想を見てるんです。思想で入つてきますから、その思想が自分を裏切らない限りどこまでもついて行くっていうのは外国人の人にとっては当然なわけです。

その彼女が日本に来て、お茶に出会いた。それで、はじめは自分で個人的にじかに茶をやつていたんですけども、ある日大寄せのお茶会に連れて行かれて、ショックを受けた。これが私の目指していた日本の文化か?と。何百人もいる人達の殆どが、形だけを追い求めていたということが、細々とお点前を習つたり、お茶の家で、

を点てたりして、二度と大寄せのお茶会に行かなくなつて、二十何年が過ぎたそうです。そして、どうしてもという機会で、また大寄せのお茶会にいつたんです。そのときには、彼女はなぜか落ち着いていたと、自分が。まあ勿論、二十何年間その中にいたということもあるけれど、それにしても妙に落ち着いている自分がやつぱり見えた。そうだ、お茶つていうのはこれだと。ここに禪の思想があり、道教の思想があり、全ての思想が潜んでいるんだ。大勢の人がいてもその大勢の人に左右されるとなく、自分というものを確立させて、衣服のお茶を飲む。これが利休の思想にも繋がるんだ。てなことを我々は考えたことあまりないですね。何とかして一日に三百人、四百人、どうやって皆さんをもつなそうかなと思つてしまふような現状なんですね。だから、私もこの人の話を読んだときに、ああそつだ、自分もいろんなことにとらわれてしまつているんだ。とつくづく痛感した記憶があるんです。ですから、私自身もそれ以来大寄せのお茶会は考えさせられる様になつてしましました。

皆さんも、是非大寄せのお茶に行つたときに、如何に自分が個で居れるか、individualといいますか、自分自身で居ら

それで結局、その茶道文化というものを考えましたときに、これは世界にも類例を見ないぐらいの、唯一西洋に向けて発信できる東洋の文化です。実は凄い文化でして、西洋の人でもお茶の事にはほんとに頭を下げるんです。たとえば日本通で高名なフランスのシラク大統領などは茶道の事について思わずはつとされるような質問をされるそうです。

やっぱりそのぐらいねえ今、お茶の文化というものが世界に向けて発信出来てて、皆さんその位凄い文化にかかわっているんですけど、是非あなたで慣れてしまわないで、強い自意識を持つて、お茶に関わっていただいくと非常にいいと思います。

我々美術商っていうのは実に複雑な立場なんですね。芸術っていうのはお金に縁遠いですよねえ。今まで多くの芸術家はお金に物凄く長けてる芸術家が多いですけれども、そういう意味においても、実は僕の仕事っていうのは、そういう風に芸術品、美術品をお金に替える仕事なんです。ですから、私自身の性格だと思いますけど、すっこいストレスがたまるんです。ジレンマがあるんです。

美術品を売買して、そして果たして人間として生きていけるんだろうか。それって一体、自分がどういう介在理由があるんだろうかという風に、ほんとに自戒してしまう事が多いんです。ですから、なんかの形で、自分がそういう名品を扱う立場ではあっても、側面でやっぱり本当の心のお茶つていいますか、それを目指しておかないと自分がどんどん腐っていくのが、わたくしは感じるわけです。

高橋陸朗さんという詩人の方に言われました。「戸田さん、左の端のお茶もある

から、右の端のお茶もやつてくださいよ。」つまり左の端つて言うのは名品を中心にお茶を販売する一群のお茶。右の端は、極端に言つてしまえばまあ、貧乏茶。「でもそこには心があります。」

そういう話を僕はムツロウさんから聞いたことがあります。正に自分が考えていることはその通り。だから美術品をたくさん持つてゐるから、あるいは美術品をよく知つてゐるから、という感覚ではなくて、この茶道つていうのは自分を磨くには最適の、実は芸術であるということ、文化であるということを、一番認識していただきたいと思つてゐるわけなんですね。

それと最後になりましたが、これからじやあ、どういう形で自分がお茶に関わつていくのかつてことです。今、茶道文化に関わつてゐるその主な理由つて言つんですか、そのことをやつぱり今考えなきやいけない時代にきていると思うんですね。

世界の人は自国の誇りとか自国の文化とか教養を身につけてない人は認めてくれないんです。わたくしはアメリカの大学を出ましたが、そこで自分が如何に日本の知識がなくて、如何に日本のことを考えていなかつた人間かということを痛感しました。インターネットナルな人と言うのは、英語をしゃべる人でも西洋の文化をしゃべる人でもなくして、自國の文化や歴史、そういうものをしっかりと発信できる人が、国際人として認められていくんです。これはもう明らかのことなんですね。



美藻庵点描

十、内壁(二)

期だと思うわけです。
だから今日はまさにある種、偉そうな言葉をしますが、一期一会でして、あの人の話に共感を覚えていただける人もいるし、またそうじゃないよつていう方もいらっしゃつて当然なんです。そうでなきやつてこんな偉そうな事をしゃべつていらしゃいますよね。じやあ何かつていうと今の我々が、まあ私みたいな若い者が、そして僕に言わせればぼくでももうロートルで、もっと若い人達が、今度は階段を二段でも三段でも降りていいから、もういつぱん親たちが、置き忘れていた重たい荷物、つまり文化と教養を持ち直して、今度は前より、もつとゆっくりしたスピードで、階段を昇るなら昇り直す。そこに留まるなら留まる。その決断を迫られる時

にいきませんよね。じやあ何かつていうといたことがあります。正に自分が考えていることはその通り。だから美術品をたくさん持つてゐるから、あるいは美術品をよく知つてゐるから、という感覚ではなくて、この茶道つていうのは自分を磨くには最適の、実は芸術であるということ、文化であるということを、一番認識していただきたいと思つてゐるわけなんですね。

世界の人は自国の誇りとか自国の文化とか教養を身につけてない人は認めてくれないんです。わたくしはアメリカの大学を出ましたが、そこで自分が如何に日本の知識がなくて、如何に日本のことを考えていなかつた人間かということを痛感しました。インターネットナルな人と言うのは、英語をしゃべる人でも西洋の文化をしゃべる人でもなくして、自國の文化や歴史、そういうものをしっかりと発信できる人が、国際人として認められていくんです。これはもう明らかのことなんですね。

だから高度経済成長期に持つてた重い荷物つていうのは、文化であり教養であつたわけです。着ていた服もやっぱり人間としての尊厳なんです。それを脱ぎ捨ててしまつて真っ裸になつて、経済の階段を上がつちやつたから、世界の人に認めら

められた。これをもう一度、今日、考
え直す必要がある。とはいうものの、私
の方をしますが、一期一会でして、あの
人の話に共感を覚えていただける人もいる
し、またそうじゃないよつていう方もい
るから、まだそんじやないよつていう方もい
るかもしだれなけれど、実はこういうもの
の、実は五感を研ぎ澄ませて、私
なりに考へ出したもの、自分なりに思つ
いたこと、そして到達したことが今しやべ
らしてもらつたことだということなんですね。

自分が思つたことを素直にしゃべらせて
もらつて、今日のテーマとはかけ離れて
いるかもしだれなけれど、実はこういうもの
の、それは知識でもなければ情報
でもない。自分の五感を研ぎ澄ませて、私
を見ていつて学んだことがそれだというこ
となんですね。それは知識でもなければ情報
でもない。自分の五感を研ぎ澄ませて、私
なりに考へ出したもの、自分なりに思つ
いたこと、そして到達したことが今しやべ
らしてもらつたことだということなんですね。

茶室に入ると、壁の腰に一尺程の紙を貼つてゐるのを目にすることがあります。これを腰貼りと言い、人の動きで土壁が落ちたり、衣服が汚れたりするのを防ぐ意味から、茶室などには普通、奉書・鳥ノ子・反古紙、書院には美濃紙等を用いる。茶室の内部では、客座は高く貼り、点前座は低く貼ることになつており、客座を一枚貼り、点前座は必ず白い紙とし、一枚貼り又は、二十四センチ高に貼り、継目は六ミリ重ねとする。

躰口上部の窓下いっぱいまで貼ることもあるが、これを脚貼りといふ。

茶室の内壁は、紹鷗の頃から土壁になつたと伝えられている。利休の頃にはすでに、腰貼りをしていたようである。

日本文化の価値を再認識したい

去る十月六日、香川国際日本文化会の主催で「茶会と邦楽の夕べ」が財団の茶室晴松亭において催され、尺八の演奏と茶席、能の講演、美藻庵の解説と盛りたくさんの内容で楽しめました。同会は永年高校教師としてご活躍の山本さん、宮本さんを中心とした文化団体です。日本文化を改めて勉強したいという主旨でこれまで精力的にイベントをされており、回を追うごとに参加者が増えているということで、今回誌上にてご紹介させて頂きます。

明治以来、又戦後半世紀の間も、わが国は欧米の文化的輸入、移植に急であつたし、今もつてその感は強いといつてよい。そのためであろうか、日本文化の真価があまり顧みられず、良き日本文化が忘れ去られる危機感さえある。日本文化は、長い時間をかけ、東アジアの文化交流の中で形成されたいわゆる日本の伝統文化と、この一世紀あまりの間に取り入れた欧米文化との重層構造になつてゐる。これからは欧米文化を知るとともに、あまり顧みることのなかつた東アジアの文化の関係における日本文化の価値を問い合わせると考へるものである。日本文化の精神は世界の人々と共有できるものであるし、また、それは何人も日常生活の中に活かしていくものであると思われる。

ここで日本文化の一つ、茶道を取り上げてみよう。「小座敷の茶の湯は、第一

一仏法を以つて修行得度する事なり」。家はもうぬほど、食事は飢えぬほどにたる事なり。これ仏の教え、茶の湯の本

は豊かで便利な反面、物を追い求め、使い捨てる消費経済による生き方、その

意なり。水を運び、薪をとり、湯をわかし、茶をたてて、仏にそなえ、人にもほどこし、吾ものむ。花をたて香をたく。みな仮想の行いのあとを学ぶなり。(『南坊録』、利休の高弟、堺の禅寺、南宗寺の住持、宗啓による利休の言葉の記録)。茶道が仏教精神の実践であるように、多くの日本文化が仏教と関わっている。利休の茶道とは、禅寺における喫茶法、食事法を都市生活の中に移植したものだと考えられる。仏道もまた茶道も、それは何も特殊なものではなく、日常茶飯事の中における精神修行なのである。質素、清貧、つましい少欲知足の生き方をめざしている。また利休の創意になる「にじり口」とは、茶室に入るには頭してそこから入らなければならぬ。江戸時代の封建的身分社会、貧富などによる差別を捨てて、人間平等、静寂、平安な一空間で心と心が交わる場であることが意図されていたのである。



(文責 宮本恵光)

* 国を問わず日本文化に興味、関心がある人なら誰でも入会歓迎。官ではない市民による市民の文化活動である。それを香川より発信しようと考へる。

* 外国文化と比較しながら日本文化を見る。できる限り独断、偏見から離れた複眼(比較的文化的視点)による日本文化の研究である。

* 単なる外国文化のコピーではない眞の日本文化と外国文化の理解、交流の中につくられる事なり。

財団行事予定

(十二月～三月上旬)

◆十二月月会

「師走・クリスマス・茶会」ご案内

慌しい年末ではありますが、ひとつとぎの安らぎをと石原恵泉社中の皆様が、楽しいお煎茶の茶会を企画して下さいました。昨年同様、煎茶席と点心席の二席構成です。お煎茶の席では一座五名様でゆつくりと、初めての方はいただき方を教わりながらお楽しみ頂けます。初めての方、大歓迎。また、雅題の趣向を含んだ点心は、社中の皆様のお手作りで、お酒はワイン?ではこんなパンは?と思案中:何が出てくるかは当日のお楽しみです。経験や御流にかかるわらず、どなたでもお気軽にご参加下さい。

記

とき 十二月十五日(日)

処 財団茶室「美藻庵」「晴松亭」

席主 三癸亭賣茶流 石原恵泉社中

席料 三千五百円

茶席のご案内 全十席 各席十五名様

第一席 九時()

第二席 九時四十分()

第三席 十時二十分()

第四席 十一時()

第五席 十一時四十分()

第六席 十二時二十分()

第七席 十三時()

第八席 十三時四十分()

第九席 十四時二十分()

第十席 十五時()

◆一月月会「初釜」

元旦は昨夜につづく三百六十五日中の一日の朝にすぎないので、何故かわづか数時間前後の塵や埃をどこかに落し、新しい年の季に身も心も清められ、背筋が

Oh! 茶Gai!

その⑭



今回は鳥取出身の金崎裕美さんにお茶の魅力を聞いてみました。きっかけは大学の先生の立ち振る舞いに魅せられたからだそうで「自分にはない女性らしいしぐさ」に惹かれたからとか。

その先生の紹介で始めたそうですが、そのお茶の先生も優しく、初心者の彼女に茶道の魅力を分かりやすく教えてくれたそうです。苦手な正座も学生生活では知り合えないであろう様々な方々の色々な話を聞いていると、自分も文化人になつた気分で時間を忘れてしまうそうです。

将来は地域医療関係に進みたいという彼女にその説を聞いてみると「本当に自分の中にある思いは口にすると嘘っぽくなるので…」と教えてはくれませんでしたが、逆に強い志を感じました。茶道で培つた気配りや思いやりの心を医療の場でも十分生かせる様な気がしました。

そ新しい文化の創造が期待できる、また文化による人と人との交流が可能であると考える。

* 国内及び海外の日本文化研究センターとの交流。

* 日本文化やその精神を外国の人々に、日本語または外国語で紹介できる人を育成する。

* 使用言語は日本語であるが、必要によつては外国語を使用する。

* 入退会自由。会費なし。実費。年に一、二度、小額の通信費を徴収する。

* イベントは年約6回

* 今までの行事例

藍染教室、観月会、製茶工場、茶畠見学、茶会、能楽鑑賞ツアーや、米国人陶芸家との会食。美術講演会、陶芸教室、精進料理と座禅、茶会と邦楽のタベ。坐禅会。

連絡先 山本 (087-874-6873)
宮本 (087-866-4768)



製茶工場の見学

シヤンとし本年こそはと心に誓つて…当財団より「初釜を」と申されましたので、おこがましく釜をかけることになりました。皆々様と共に新春の寿をいたしたく、お待ち申しております。

辻 宗成

日頃岡山でご活躍の辻先生より右記のようなメツセージをいただきました。
濃茶席・薄茶席と共に本年も祝いの点心や福引等々、あれこれと楽しんでいただけますよう、準備を進めています。皆様のご参会をお待ちいたしております。

記

とき 平成十五年一月五日(日)
席主 濃茶席 美藻庵 裏千家
席料 六千五百円

茶席のご案内

各席十八名様
第一席 九時()
第二席 九時五十分()
第三席 十時四十分()
第四席 十一時三十分()
第五席 十二時二十分()
第六席 十三時十分()
第七席 十四時()

各席約一時間半を予定

◆ 二月月釜予告詳細は後日ご案内いたします。

とき 平成十五年二月九日(日)
席主 濃茶席 武者小路千家 大内 泰雄

薄茶席 裏千家 松野恵美子
点心席 表千家 山地美津子

すべての行事は予約制(時間指定)となります。お申し込み、お問合せは、当財団事務局まで(水曜日休館)

(087) 826-3355

東讃の与田寺は厄除けの寺として有名ですが、行基菩薩の開基という歴史を誇る古刹でもあります。寺では春、秋に分けた錦桜茶会が三十年以上も続けられ、さすがに江戸時代の名陶工・仁阿弥道八ゆかりの讚窯跡が近い土地柄を偲ばせます。

仁王門前のムクの巨木の影には冷たい気配が混じりながらも、境内のモミジはほんのり紅葉を始めたばかり。里の錦秋はこれからでしょうか。

鐘楼堂をぐるっと本堂の薬師如来にございさつの後、赤い和傘を広げて野点の趣向をしつらった客殿の席に通りました。秋寒をしや断したガラス越しに広がる見事な庭。池を巡つて林立する木々が陽に透けて、白い秋の清澄が部屋を明るく彩りました。

借景の与田山のサクラも見事なもので、春にも是非にと親切なお誘いをうけながら、お薄を一服、続けて熱めのもう一服、伝統のお茶をいただきました。

喫茶居(十四) 「錦桜茶会」

東讃の与田寺は厄除けの寺として有名ですが、行基菩薩の開基といふ歴史を誇る古刹でもあります。

寺では春、秋に分けた錦桜茶会が三十年以上も続

けられ、さすがに江戸時代の名陶工・仁阿弥道八ゆ

かりの讚窯跡が近い土地柄を偲ばせます。

仁王門前のムクの巨木の影には冷たい気配が混じ

りながらも、境内のモミジはほんのり紅葉を始めた

ばかり。里の錦秋はこれからでしょうか。

鐘楼堂をぐるっと本堂の薬師如来にございさつ

の後、赤い和傘を広げて野点の趣向をしつらった客殿

の席に通りました。秋寒をしや断したガラス越しに

広がる見事な庭。池を巡つて林立する木々が陽に透

けて、白い秋の清澄が部屋を明るく彩りました。

借景の与田山のサクラも見事なもので、春にも是非にと親切なお誘いをうけながら、お薄を一服、続けて熱めのもう一服、伝統のお茶をいただきました。

茶華道ガイド

裏千家淡交会香川支部 ☎(0877)46-1899

- 12/1 月金 席主: 小早川宗輝
坂出勤労福祉センター 500円 10:00~14:00
12/8 月金 席主: 安井宗善
善通寺樟蔭軒 500円 10:00~14:00
1/12 月金 席主: 豊島宗兼
善通寺樟蔭軒 500円 10:00~14:00
1/19 月金 席主: 佐竹宗惠
丸亀生涯学習センター 500円 10:00~14:00
1/26 三野町大見文化祭 席主: 加藤宗和
三野町大見小学校 500円 10:00~14:00
1/26 月金 席主: 佐藤宗栄
坂出勤労福祉センター 500円 10:00~14:00

裏千家淡交会高松支部 ☎(087)865-7150

- 12/未定 年末助け合い茶会 高松支部栗林青年部
天神会館 500円 9:00~16:00
1/13 第49回日本伝統工芸展高松展協賛茶会
席主: 村尾宗淑、高畠宗穂
文化会館 500円 9:00~16:00
2/2 月金 席主: 磯部宗祐
天神会館 600円 9:00~15:00

江戸千家不白会香川支部 ☎(087)826-1122

- 1/5 第49回日本伝統工芸展高松展協賛茶会
席主: 渡辺宗喜
文化会館 500円 9:00~15:30

表千家同門会香川県支部 ☎(087)874-0458

- 2/9 表千家流四季茶会 席主: 江口珠枝
本覚寺別院 500円 9:00~16:00

香川いけばな連盟 ☎(087)889-1169

- 1/7~12 第22回香川いけばな展
主催: 香川いけばな連盟
(池坊、一生流、嵯峨御流、草月流)
但し、前期1/7~9・後期1/10~12 高松三越
10:00~19:00 (最終日は、17:00まで)

観音寺市役所商工観光課 ☎(0875)23-3933

- 2/中旬 観梅茶会 観音寺市観光協会 雅之郷 500円

観音寺市民会館 ☎(0875)23-3939

- 1/26 池坊三豊支部花展
観音寺市民会館中ホール 9:00~17:00

琴平月釜茶道会 ☎(0877)75-4420

- 12/7~8 歳末助け合いチャリティー茶会 裏千家琴平教授者
田中宗武、片桐宗恵、上杉宗邦、宮武宗隆
総合福祉センター 200円 10:00~15:00

玉藻公園管理事務局 ☎(087)851-1521

- 12/1 第22回香川大学表千家流茶会 被雲閣
12/16 一茶流久松会流展 被雲閣

武者小路千家香川官休会 ☎(087)851-2258

- 12/1 月金 席主: 山下惠美 本覚寺 500円 9:00~15:00
1/12 月金 席主: 杉山桂子 本覚寺 500円 9:00~15:00
2/2 月金 席主: 宮休庵男子部 本覚寺 500円 9:00~15:00
3/ 月金 席主: 山地久子 本覚寺 500円 9:00~15:00

武者小路千家官休庵 佐々木博子社中 ☎(087)821-8777

- 1/19 第14回初釜 席主: 佐々木茂社中
中條文化振興財団 800円 9:00~16:00
3/2 第11回学生釜卒業記念茶会
部長: 山内菜摘 席主: 佐々木博子社中
中條文化振興財団 500円 9:00~16:00
(あいうえお順)

次の期間(3月1日から6月上旬)の情報を2月10日までにお知らせ下さい。

上記予定は変更する場合もあります。



高松市立四番丁小学校の6年生と父兄の皆様が同校創立110周年記念の事業の一環で茶室 晴松亭・美藻庵に於いて「数寄屋茶道体験」をされました。後日、その時の感想をお寄せ下さいましたのでご紹介致します。

子どもたちの感想

1番心に残っているのはにじり口に入る時/亭主の一生けん命作る気持ちです。



●中條文化振興財団後援のイベント紹介

第16回 高松冬のまつり

12/21(土)~26(木) 17:00~21:30 中央公園

- | | | |
|---------|-----------------------------|------------------------|
| 12/1(日) | オープニングセレモニー | 15:00~16:30 (生涯学習センター) |
| | JRツリーライト式 | 18:00~ (JR高松駅) |
| 14(土) | '02少年サッカー 開会式 | 9:00~9:30 (香川県総合運動公園) |
| 15(日) | げんき!キッズカーニバル | 10:30~15:30 |
| 21(土) | 点灯式 | 10:30~15:30 |
| | 明日があるさコンテスト | 18:00~18:45 |
| 22(日) | 光のパレード | 19:00~19:45 |
| | 劇団ブチミュージカル | (香川県県民ホール) |
| 23(月) | JC DAY | 10:00~16:00 |
| | テーマ・メッセージイベント | |
| | 第10回サンタクロース音楽祭 | (高松市民会館) |
| 24(火) | Dancing Noel | |
| | 自転車パレード | (サイクル・タウン・高松) |
| 25(水) | クリスマス・ファンタジー | |
| | こどもミュージカル劇場 | (香川県県民ホール) |
| 26(木) | 消灯式 | 20:00~20:40 |
| 1/1(水) | 2003 HAPPY NEW YEAR カウントダウン | 23:30~1:00 |
| | 点灯 1/1 0:00~3:00 | 1/1~2・3 17:00~22:00 |

●チケットは

前売り 1800円
当 日 2000円
ペア 3000円

●発売所

財団事務局
大阪屋群家店
タマル本店
劇団事務局

ローソン: Lコード
高松公演 69217
三木公演 69218

●お問い合わせは(事務局)

さぬき市津田町公園通り
中川建材店内
TEL0879-42-3567
■劇団ホームページ
<http://www8.tiki.ne.jp/~petitmusical/>



12月22日(日)香川県県民ホール(グランド)
2月2日(日)三木町文化交流プラザ 17:30開場
3月30日(日)宝塚パウホール 18:00開演

イベントガイド

香川県文化会館 ☎(087) 831-1806

<1・2・3階展示室>
1/4~19 第49回日本伝統工芸展（会期中無休）9:00~●
2/1~3/2 楽しんで、味わって、美術探検
～アート見にきまい～ 9:00~●

<3階芸能ホール>
1/9 講演会 東京国立近代美術館長 辻村哲夫氏
「美術館について思うこと」 14:00~■

<6階常設展示室>
11/23~1/19 香川の彫刻家たち
～近代日本彫刻の青春期 9:00~●
2/8~3/23 サルバドール・ダリ「マルドロールの唄」
～一枚の絵画から～ 9:00~●

香川県県民ホール ☎(087) 823-3131

<グランドホール>
12/12 ソフィア国立歌劇場
「ピッチャーニ『ラ・ボエーム』」 18:30~●

<アクトホール>
1/11 新春玉藻能
～説話物語の世界～ 14:00~●

香川県歴史博物館 ☎(087) 822-0247

<部門展示室>
9/18~12/8 「高松城下を掘る」 9:30~■
瀬戸内海歴史民俗資料館 ☎(087) 881-4707
<講演会>
2/8 幕末漂流伝 一海難と海外漂流の顛末
香川県文化会館薪能ホール 14:00~■
(要事前申込)

<企画展> 場所：常設展示室
11/2~3/2 讃岐漁民大海を拓く 一海外出漁史ー ●
3/8~3/1 架橋の島々の文化財 ーくらしと文化ー ●
<土曜講座> 場所：研修室（14:00~15:30）
12/14 千支の話 ■
1/18 和船（ウェソン）と朝鮮負子（チゲ）
ー民具に見る日韓の近代ー ■

高松市教育委員会文化振興課 ☎(087) 839-2636

12/2 デリバリーーアーツ事業
「オーケストラ演奏」大寿苑 10:00~■
12/4 デリバリーーアーツ事業
「オーケストラ演奏」川添公民館 10:00~■

高松市教育委員会新市民会館整備課 ☎(087) 839-2600

12/7 新市民会館プレイベント第3弾
「アーツ工房～ワークショップ～」
チャイルドコンサート
「ファミリーで～さわって！うたって！きいてみよう～」
市民文化センター講堂 14:00~●
1/25 新市民会館プレイベント第3弾
「アーツ工房～ワークショップ～」
チャイルドコンサート
「ファミリーで～さわって！うたって！きいてみよう～」
トリートホール 13:00~●

高松市美術館（休館日：月曜） ☎(087) 823-1730

<2階展示室>
11/1~12/8 アンジェ美術館展 9:30~●
2/21~3/23 知られざる西アフリカの美術展 9:30~●
<1階展示室>

11/9~1/19 第4期常設展
①斎藤義重・吉原治良
②特別展示 菊薙 太田傳展 9:30~●
1/25~3/30 第5期常設展 9:30~●
<3階講座室他>

2/22 アートで遊ぼう！「ゲームでアートを楽しもう！」
10:00~（要事前申込・定員15名） ■

菊池寛記念館 ☎(087) 861-4502

<文芸講座> *サンクリスタル高松 3階第1集会室
12/7 「ひねる苦と楽」 13:30~■

高松市歴史資料館（休館日：月曜） ☎(087) 861-4520

<サンクリスタル高松1階ロビー>
10/1~12/15 サンクリスタル高松の10年後 9:00~■

高松市立市民会館 ☎(087) 839-2888

12/5 小林桂 “SOFTLY” TOUR2002 19:00~●
12/11 橋幸夫スペシャルONステージ 18:30~●
12/12 コブクロコンサート 18:30~●
12/14 香川大学合唱団第46回定期演奏会 14:00~●

高松テルサ ☎(087) 844-3511

12/1 ミュジカフィオーレ高松 14:00~■
12/14 高松ウインドシンフォニー打楽器アンサンブルRIN演奏会 17:30~■
12/18 ユリアーナ・アブジェーエワ ピアノリサイタル 19:00~●
12/20 甲斐田マサ子ピアノリサイタル 「バロックからロマン派まで」 19:00~●
12/21 二期会クリスマスコンサート 18:30~●

財団法人四国民家博物館 ☎(087) 843-3112

12/14 異人館コンサート（Vi.藤原綾・P.高橋理沙） 喫茶異人館 13:00~・15:00~●
12/26 餅つき 10:30~
1/1~3 振る舞い酒（河野家にて） 10:00~
1/11 異人館コンサート（エル・タンゴ・ヴィーウォ）
1/13 鏡開き・とんど焼 10:00~
2/1 雛飾り開始
2/8 異人館コンサート（アリオン弦楽合奏団）
2/16 幼稚園児雛人形作品展
3/1~3 四国村雛祭り
3/8 異人館コンサート（Vi.鈴木理恵子・P.小柳美奈子）

三越高松店 ☎(087) 825-0828

<本館5階美術画廊>
11/26~12/2 緒方修一スティンドグラスアート展
12/3~9 第40回現代工芸四国会展
12/10~16 迎春用掛軸展
12/17~23 小池佳寿美絵画展

四季ギャラリー ☎(087) 822-9010

12/1~28 井川淳写真展「黄山」 7:30~■
2/1~28 高賀会フォトクラブ写真展 7:30~■

宮武画廊 ☎(087) 851-2354

11/25~12/1 小規模作業所あじさいの「生きる・楽しいナーナー展」 9:00~■
12/2~8 第39回 高松フォトクラブ写真展 9:00~■
12/9~15 新名宣昭 油絵個展 9:00~■

観音寺市民会館 ☎(0875) 23-3939

<大ホール>
12/1 「わたしたちの歓喜の歌」 観音寺第九演奏会 14:00~●
12/11 劇団はぐるま座公演 18:30~●
2/23 アグネスチャン講演会 ■

<中ホール>

1/26 池坊三豊支部花展 9:00~■

坂出市民ホール ☎(0877) 45-1505

12/8 日舞公演坂出市民芸術祭 8:00~●
12/15 坂出演劇 フェスティバル 9:00~
2/9 都美弥会おどりぞめ（日舞） 9:00~

あーとらんど ギャラリー（月曜休廊） ☎(0877) 24-0927

* 1階絵画ギャラリー
11/30~12/22 2002様々な邂逅展 10:00~■
1/11~2/2 林孝彦展 10:00~■

2/6~23 関正和ミニチュア展 10:00~■

* 2階工芸ギャラリー
11/28~12/27 2002アモール・プラザ展 10:00~■

丸亀市教育委員会文化課 ☎(0877) 24-8822

1/12 まるがめクラシックギャラリーコンサート 丸亀市民会館大ホール 14:00~●

丸亀市立資料館（月曜休館） ☎(0877) 22-5366

11/2~12/8 開館30周年記念 資料館名品展 丸亀市立資料館 9:30~■

丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 ☎(0877) 24-7755

10/1~12/5 猪熊弦一郎展
～地図でない地図～ 10:00~●
12/15~3/9 速水史朗展
～風土記（さぬきうた）～ 10:00~●

丸亀市民会館 ☎(0877) 23-4141

<大ホール>
12/2~4 ミュージカル鑑賞教室「とべないホタル」 10:30~・13:30~●
12/21 スペイン聖イグナチオ少年少女合唱団 & 聖イグナチオ室内合奏団 14:00~●

香川県西讃文化協会連絡協議会 ☎(0877) 24-8822

2/5~16 第12回西讃文化協会美術展
善通寺市美術館 10:00~■

灸まん美術館 ☎(0877) 75-3000

11/30~12/1 第12回チャリティー展 9:00~■
12/13~17 第4回備前焼陶芸教室展 9:00~■
12/20~24 勝賀瀬寛・サタケタクヤ 二人展 9:00~■
1/1~14 江戸健展 9:00~■
1/17~21 十河紀子 七宝焼展 9:00~■
1/24~2/4 Ambient Works写真展 9:00~■
2/7~11 Kouki Nakaguro油彩展 9:00~■
2/14~18 女二人展 創作人形・ドライフラワー 9:00~■
2/21~28 琴平さり絵同好会展 9:00~■
3/7~11 氏家圭三「水辺のたび」写真展 9:00~■
3/14~18 行成正晴 手織り展 9:00~■

多度津町民会館 ☎(0877) 33-3330

12/8 「ふれあいの家」コンサート 13:30~●
12/15 劇団はぐるま座「誇りの海」公演 13:30~●
2/22 小椋桂「歌談の会」 ～町民会館文化事業～ 18:30~●

飯山町文化協会 ☎(0877) 98-7961

12/1 麻作り講習会
飯山町役場庁舎分館 14:00~■

総合会館アイレックス ☎(0877) 86-6800

12/22 濱戸 フィルハーモニー交響楽団クリスマスコンサート 14:00~●
1/22 劇団四季公演「冒險者たち」 18:30~●

香川町教育委員会 ☎(087) 879-0231

<香川町総合体育館>
12/8 井上あずマリーコンサート
香川町スポーツ文化振興会H14年度事業 13:30~■

町立塩江美術館 ☎(087) 893-1800

<企画展示室>
11/16~12/1 塩江町文化協会作品展 9:00~■
12/3~15 貴志勉作陶展 & 教室作品展 9:00~●
12/17~1/13 西沢智子展（仮称） 9:00~●
<行事>

12/15 クリスマスコンサートIN塩江 14:00~●

さぬき市文化振興財団 ☎(087) 894-1000

<志度音楽ホール>
12/11 バイヤール室内管弦楽団クリスマスコンサート 19:00~●

とらまる座（大内人形劇場） ☎(0879) 25-0400

12/21~23 バベツツュマイムシアターうさぎ小屋
「クリスマスのまえのばん」 13:30~●
1/2 お正月だよ！人形劇 11:00~・13:00~●
2/15~16 春一番人形劇祭 13:30~●
2/22~23 おひとり座
「きつねのおきゃくさま」 13:30~●
2/26~28 人形劇団ぱけっと
「おむすびころりん」 10:30~●

●は有料、■は無料、▲は参加料、★は整理券が必要です。（記号表示は判明したもののみ）

「文化通心」第37号は3月1日発行です。次の期間（3月1日から6月上旬）の情報を2月10日までにお知らせ下さい。☎(087) 826-2212

上記予定は変更する場合もあります。

平成14年度
第十回財団賞授与式
とき：10月4日 於：晴松亭立札席



財團創立当初より文化活動の奨励事業として制定された「財團賞」も今回で十年目を迎えた。長年地域文化の振興に貢献された受賞者（二名）には賞状と奨励金二十万円が贈呈された。また第九回助成金交付団体には認定書が授与された。

◆財団賞受賞者の紹介

◎庵治締太鼓保存会（県無形民俗文化財）
名譽会長 政木国光氏 会長 広瀬一郎氏
室町時代に山陰地方から渡来したと
伝えられ、以来代々受け継がれている。
日本の代表的な伝統芸能として国内外
の文化交流の一端を担い、また地元で
も郷土文化の保存、継承、発展に精力
的に活動をされている。

◎宮脇 銀子氏（けいこ）
（庵治町文化協会会長推薦）

◆助成金交付団体のご紹介

その澄んだ音色は打楽器奏者の白杵美智代氏によつて演奏され、讃岐の音として県内外に紹介される機会が多い。

『あ・うんの数寄講座』

上製本二五六頁
助成価格一六〇〇円

- ◆助成金交付団体のご紹介

○茶の湯をさらに楽しむ会（代表 大内泰雄）

○現代舞踊協会かがわ（代表 シマダトミオ）

「ダンスマッセージ さぬき舞まい」

平成十四年九月一日、ユープラザうたづにて開催されました。テーマは「M I Z U」。

○助成金の交付対象は、前年度末（三月）に決定するが、今年度は次の二団体で、各々事業終了後、最高で三十万円の助成金が交付される。

○利休の孫・千宗旦

●日本人の美意識 わび・さび・数寄とは
●購入ご希望の方は事務局までご連絡下さい。本は郵便振替用紙と共に発送させて頂きます。代金はお近くの郵便局にてお振込み下さい。手数料・送料共に無料です。

●花でもてなす茶の湯

●日本建築の真行革

●日本文化と尺寸

●千利休のオリジナリティとは何か
●茶の湯と間合いの美
●樂茶碗の世界

厳しい夏の暑さに傷んだ身体を癒してくれる秋風にのって金木犀の香りが流れてくる日に、当財団の財団賞と助成金の交付式があつた。

数年前、香川町に伝承される農村歌舞伎ともいえる「祇園座」が、かつての隆盛と栄光の日を甦らそうと努力していることを讃えられて、財団賞を受けられた。

芸を伝承された香川一中の生徒さんによつて、地元出身の平賀源内にまつわる行事のなかで、源内さん作の「神靈矢口の渡し」が上演された。

現代人にとっては、難しいといわれる様式美の世界の歌舞伎を、若い生徒さんたちによつて見事に演じられた。

見ていた。シーンとくるもののかあつた多くの観客の賞賛を浴びた。

これも先年、その活動を育成されるために助成させていた大川郡津田町（現さぬき市）の児童・生徒によるミュージカルグループ「アチャミュージカル」は、有能な指導者と子供たちの努力によってメキ上達、全国各地で上演、数々の賞を受けられ、いまや「香川発の全国区」の域に達したという。

財団賞・助成制度、今後どんな大輪の花を咲かせてくれるのだろう。

「声・情報お寄せください

〒760-0017 高松市番町二丁目一一一
財中條文化振興財団編集部

FAX (087) 826 · 3355

助成金の申請の締切は、平成十五年一月末日です。
平成十五年度・文化活動奨励事業についてのお問い合わせは事務局まで――。

平成十五年度・文化活動奨励事業についてのお問い合わせは事務局まで――。

月に一度の喫茶室

晴松亭でお茶しませんか!

■平成14年12月17日(火)
■平成15年1月21日(火)
■平成15年2月17日(火)

毎月第3火曜日 ●10:00~16:00
喫茶料 1000円 (友の会は500円)

編集後記

TEL(087) 826-3355
FAX(087) 826-2212

〒760-0017 高松市番町二丁目一一一二
財中條文化振興財団編集部

声・情報お寄せください

財団賞・助成制度、今後どんな大輪の花を咲かしてくれるのだろう。

「文化通心」第37号は平成15年3月1日発行です。